



人から人へ  
愛の献血



3月は千葉県献血推進強調月間です!!

# 献血にご協力を!

千葉県健康福祉部業務課  
☎043-223-2614

**柏献血ルーム**  
☎04-7167-8050



**松戸献血ルームPly2**  
☎047-703-1006



**献血ルームフェイス**  
☎047-460-0521



**津田沼献血ルーム**  
☎047-493-0322



**モリール千葉駅献血ルーム**  
☎043-224-0332



**運転免許センター献血ルーム**  
☎043-276-3641



**献血ルーム受付** 定休日/年末年始  
成分献血/10:00~12:00・14:00~17:00  
400ml(200ml)献血/10:00~13:00・14:00~17:30

**運転免許センター献血ルーム受付** 定休日/土曜・祝日・年末年始  
成分献血/9:00~12:00・14:00~15:30  
400ml(200ml)献血/9:00~13:00/14:00~16:30 (日曜午後は16:10迄です)

### 献血とは

患者が安心して輸血を受けることができるように、健康な人が善意によって、無償で進んで自分の血液を提供することです。

血液は、酸素を運ぶ、病原体とたたかう、出血を止めるといった生命の維持に欠かせない役割を担っていますが、人工的に造ることができません。このため、病気やけがで血液を必要としている患者さんに血液を届けるためには、皆さんの献血が必要です。

### 県内の献血の状況は

平成20年度は、232,889人の皆さんにご協力をいただきました。春先や冬場には献血者が減少し、一部他県から血液の応援をいただき県内医療機関の要請にお応えしました。

### 若者の献血離れて本当?!

県内の年齢別献血者の変化を見ると、16歳から29歳までの若い人達の献血者が年々減少しています。この傾向は全国も同様です。このまま少子高齢化が進み、若い人たちの献血への協力が減ってしまうと、輸血用の血液が不足して、必要な時に輸血ができなくなる可能性があります。

### 複数回献血と400ml献血のお願い

一人でも多くの皆さんに献血にご協力いただくとともに、複数回献血(年2回以上の献血)をお願いしています。輸血を受ける患者さんの副作用(発熱・発疹など)発生の可能性を低くするために、400ml献血をお願いしています。

### 献血で健康管理!!

献血にご協力いただいた方で、結果通知を希望された方を対象に、血液型のほか、7項目の生化学検査を行い、結果をお知らせしています。これらの献血時の検査によって、病気の早期発見ができることもあります。通常、医療機関で同様の検査を行うと1万円以上かかります。

#### 【検査項目】

ALT (GPT)、γ-GTP、総たんぱく、アルブミン、A/G比、コレステロール、グリコアルブミン(GA)

エイズ検査の結果については、お知らせしていません。エイズ検査を目的とした献血はしないでください。エイズ検査を希望の方は、お近くの健康福祉センター(保健所)において、無料、匿名で行っていただけますのでご利用ください。



### 《献血についてのお問い合わせは》

■お近くの健康福祉センター(保健所) ■お住まいの市町村窓口

■県庁業務課 TEL 043-223-2614 [http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/c\\_yakumu](http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/c_yakumu)

■県赤十字血液センター TEL 047-457-0711 <http://www.chiba.bc.jrc.or.jp>

## 地域で築こう!

## 薬物乱用を許さない社会環境づくり

最近、有名人や大学生による覚せい剤や大麻、合成麻薬の一つであるMDMAなど薬物に関するニュースが連日のように報道されています。実際、全国で年間約1万5千人が薬物に関連した事件で検挙されており、そのなかでも覚せい剤によるものが約8割を占めていますが、大麻による検挙者数も増加傾向にあり、昨年は2,758人と過去最高となりました。

覚せい剤は「エス」や「スピード」、MDMAは「エクスタシー」などと別の名前で売られ、危険な薬物だと知らずに使ってしまうことがあります。最近では携帯電話やインターネットを使って、時間、場所を問わずに売買が可能となったことから入手が容易となり、若い世代や一般層にまで問題が広がっています。

このような薬物に共通していえるのは脳に作用し、特に覚せい剤では幻聴、幻覚、被害妄想などの精神障害を引き起こし、さらに「依存性」といわれる自分の意思で薬物の使用をコントロールできない状態になってしまうことです。また、薬物の使用をやめた後でも飲酒やストレスなどの簡単なきっかけで症状が再発し、長期にわたり後遺症に悩まされます。したがって、薬物はたとえ1回だけでも使ってはいけません。

薬物乱用は個人の問題だという人もいますが、薬物を何とかして手にいれようと殺人や放火などの犯罪を引き起こすなど、家族や社会全体にも大きな迷惑をかけることになってしまいます。

一人ひとりが、薬物の危険性を正しく理解して、地域が一体となって薬物乱用を絶対に許さない社会環境をつくるのが大切です。



## 薬物のいろいろな俗称

- ◆覚せい剤… エス・スピード・アイス・シャブ
- ◆大 麻… ハッパ・マリファナ・グラス・チョコ
- ◆MDMA… エクスタシー・バツ (「×」・「罰」)
- ◆ヘロイン… ペー・チャイナホワイト・ジャンク

## 《薬物についての相談は》

■ 県精神保健福祉センター TEL043-263-3893 ■ 県業務課 TEL043-223-2620

■ お近くの健康福祉センター (保健所)・警察署